

さといも

「さといも」は「さといも」、「いも類」、「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。
 「ずいき」は「さといも(葉柄)」「ずいき類」、「茎野菜類」、「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早熟 (石川早生)	種い	も伏	せ	込み								
普通 (唐芋)		○	○	▲	▲							
普通 (えぐ)			○	○	▲							
疫												
黒												
軟												
ア												
ブ												
ラ												
ム												
シ												
ハ												
ス												
モ												
ン												
ヨ												
ト												
ウ												
ハ												
ダ												
ニ												
類												

疫病

留意事項

- 1 高温多雨時に多発し、台風後などに一気に広がる。
- 2 薬剤散布時は必ず展着剤を加用し、株元にしっかり掛かるように散布する。
- 3 さといもは展着剤で薬害を起こしやすいのでアプローチBI、スカッシュ等のさといもに薬害が少ない薬剤を使用する。
- 4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の成分（マンゼブ）の総使用回数は、2回以内。
- 5 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤はかぶれに注意する。
- 6 QoI剤<< 1 1 >>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 種いもは、無病地から採取する。
- 2 排水を良好にする。
- 3 連作を避ける。
- 4 被害株は早期に除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 無マルチ栽培の場合、土寄せの際なるべく葉柄に傷を付けないようにする。
- 6 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ジマンダイセン水和剤](#)、[ペンコゼブ水和剤](#) <M3> 【500倍 7日/2回】
 - ・ [ジーファイン水和剤](#) <NC> <M1> 【1000倍 前日/—】
 - ・ [ランマンフロアブル](#) <21> 【2000倍 前日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 14日/3回】

黒斑病

防除方法

- 1 種いもは、無病地から採取する。
- 2 植付け時に無病いもを用いる。
- 3 種いもを下記のいずれかの薬剤で処理して、そのまま（ぬれたまま）植付ける。

- ・ [ベンレート水和剤20](#) <M3> <1>

【20倍 1分間種いも浸漬 植付前/1回】または

【種いも重量の0.4~0.5% 種いも粉衣 植付前/1回】

軟腐病

留意事項

- 1 収穫直前に雨が続くと被害が多い。
- 2 病原細菌は土中及び被害部について越冬する。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 連作を避ける。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 無マルチ栽培の場合、土寄せの際なるべく葉柄に傷を付けないようにする。

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 植付時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アドマイヤー1粒剤](#) <4 A> 【4kg/10a 植溝土壌混和 植付時/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【2000~3000倍 7日/5回】
 - ・ [ウララDF](#) <2 9> 【2000倍 7日/2回】
 - ・ [エルサン乳剤 劇](#) <1 B> 【1000~2000倍 7日/1回】
 - ・ [アドマイヤー顆粒水和剤 劇](#) <4 A> 【10000倍 14日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 年5～6回の発生で8～10月頃の被害が最も大きい。
- 2 老齢幼虫の防除は困難なので、若齢期防除に重点を置く。特に、発生の激しい地帯では一斉防除が効果的である。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 下記の薬剤を、若齢幼虫を対象に散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) <3 A> 【1000倍 14日/3回】
 - ・ [ヨーバルフロアブル](#) <2 8> 【5000倍 前日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000～2000倍 7日/2回】
 - ・ [アニキ乳剤](#) <6> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <1 3> 【2000倍 7日/2回】

ハダニ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コロマイト乳剤](#) <6> 【1000倍 前日/2回】
 - ・ [マイトコーネフロアブル](#) <2 0 D> 【1000倍 3日/1回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <1 3> 【カンザワハダニ 2000倍 7日/2回】
 - ・ [サンマイトフロアブル](#) 劇 <2 1 A> 【1000～1500倍 21日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。